
アフガニスタンの農業

長年月にわたる戦乱によって荒廃しまったアフガニスタン（正式名称はアフガニスタンイスラム国、Islamic State of Afghanistan）にも、ようやく平和が訪れ、世界各国の温かい支援を受けて復興の槌音が響こうとしています。

国の将来を担う人材育成のため、教育の復興は最重要課題でしょうが、それとともに日々の民生安定のため治安の維持、医療の充実とならんで、食糧の安定供給は欠かせません。食糧については、当面かなりの量を外国からの援助に仰がなければなりません。今後の自立には荒れ果てた農業基盤を回復して、生産の向上をはかることが何よりも急がれることと思われます。

乏しい資料のなかから、同国の農業事情の概要について紹介します。

1. 過酷な自然条件

テレビの放映で目にする同国は、植生の全くない不毛の山岳地帯ばかりです。国土の3/4は山地で、しかもその大部分は乾燥気候帯に属し、年間をとおして雨は少なく、そのほとんどは1月から4月にかけて降ります。世界の屋根といわれるヒマラヤ山脈、パミール高原につづくヒンズークシ山脈が東西に走り、北部の山岳地方は冬季は冷え込みが厳しく、かなりの積雪をみますが、この雪は国民の生活用、また農業用の貴重な水源となっています。

内陸にあるため寒暑の差は厳しく、首都カブールの1月の平均気温は -1.8°C 、7月のそ

れは 25.1°C 、年間総雨量は 294.2mm となっています。

国土面積は 65.2万km^2 、耕地は 805万ha で国土の12.4%、牧草地は $3,000\text{万ha}$ で46.0%ですが、森林は僅か 190万ha で2.9%にすぎません。残りは都市部と不毛の山岳地帯となっています。人口は2,176.5万人、人口密度 33人/km^2 で、農業従事者数は606万人で、その1人あたり耕地面積は 1.3ha となっています（1999年）。

2. かんがい施設

農耕地のうち、半ば以上は乾燥がはなはだしく、何等かのかんがい施設を必要としますが、その方法には3通りがあります。

- ① 河川から水を引く
- ② 地下水路から配水する
- ③ 井戸水を用いる

第1の方法は、狭い谷あいの段状となっている畑で行われることが多いのですが、溝を掘って流れの水を導き、それをさらに多くの細い導水路に流します。

この方式の大規模なものとしては、大きな川に堰・ダムをつくって、それから水路に配水するのですが、この国には何世紀も前に人力でつくられた工作物があって、これらは漸次新型の機械力によって操作する方式にかわりつつあります。

次いで、隣国のイラン全土で広く行われている、カレーズまたはカナート（*kariz* or *qanat*）とよばれる方式で、地下水を暗きよによって遠くまで導きます。水の流れをよくするために、高台で水源となる地下水を探りあてて中

核となる井戸を掘り、それから水を引こうとする方向に沿って、ほぼ20～30mごとに堅て穴を掘り、これらの穴を狭い横穴（幅50～60cm、高さ1mくらい）で連結して水をとおす方式で、水が地下を流れるために蒸発などによる損失が少なくて済みます。

井戸によるものは、畜力またはエンジン付きのポンプを用いてくみ上げる方式で、だいたい農家が各個に行うことが多いようです。

かんがいが行われない地域では、ボウラ(bohra)とよばれる乾燥農業が行われますが、主作物は冬コムギ(秋に種をまいて越冬させ、翌年晩春から夏にかけて収穫する作型のもの)で、生育期間中に程よい雨量に恵まれれば良質のものが生産されます。

3. 農業生産

一般に化学肥料はあまり用いられませんが、耕地は広いので1年間あるいは適当な間隔で休閑が行われています。農作業は人力または畜力によってきましたが、第二次大戦後はトラクター・収穫作業機などが導入され、機械化ははじめられています。

主な農作物の生産量は次のとおりです(FAO統計、1999)。

コムギ283万トン（以下同）、コメ45、オオムギ33、トウモロコシ24、ヒマワリ1.6、ワタ2.2

コムギはこの国ではもっとも重要な農作物であり、コメは比較的水の便のある東部地方で生産されています。野菜は大都市周辺でジャガイモ(24)、タマネギ、キャベツ、ナス、カボチャなどが経済栽培されます。また、この国は品質のよい果物を生産することで知られ、ブドウ33、リンゴ1.8、オレンジ1.2のほかアンズ、サクランボ、イチジク、ザクロ、

マルメロなどを生産し、ところによってはバナナも栽培されています。乾燥する気候を利用した乾果の生産も盛んで、これらは貴重な輸出品となっています。

その他の経済作物としては、テンサイ、タバコなどが一部で生産されています。

好ましいことではありませんが、内戦による国内経済の混乱がひきおこした麻薬原料の栽培と、中央アジア・中近東からの物資密輸の問題もあって、国の復興にはこれらの対策も必要とされます。

4. 畜産

飼養される家畜としては、ウマ30万頭（以下同）、ウシ150、ヒツジ1,430、ヤギ220、ラクダ27、などですが、この国の暮らしにもっとも密着したものはヒツジであり、これらは種類によって用途が異なり、ギルザイ(ghilzai)は羊毛用、ターキ(turki)は汎用、アラビ(arabi)はじゅうたん製造用、カラクル(qaraqul)は上等な毛皮用で、とくにこの羊皮は米国などに輸出されます。ヒツジはまた、肉用とされるほか、その乳はチーズ造りにも用いられます。

ウマは乗用で、ラクダは遊牧民族がヒツジをつれて移動する際の荷物運搬用として、また一般の運送用家畜とされています。

5. 食生活

農村部での主食はパンとコメで、パンは大きな釜の中に張りつけて焼いた、大きな平たい型のもの、コメはヒツジ、ニワトリの肉、タマネギなどの野菜、香料を加えて調理されることが多く、ほかにチーズが副食とされますが、チーズはそれぞれの家庭でつくられる独得のものがバザール(市場)で売買されます。(編集部)